

## 本のPOP広場について

### 1. はじめに

大阪府立中央図書館では他の年齢層に比べてヤングアダルト（以下「YA」とする）層の利用が少ない（1）。そこで、平成19年度に「若者利用者増アクションプラン」概要作成チームを立ち上げ、YA層を図書館へ呼び込む方法を考えた。その方法として「本のPOP広場」が提案された。

「本のPOP広場」とは13歳～20歳までのヤングアダルトに作成したPOPを応募してもらい、それを一般投票により優秀作品を決めて表彰式を行う、2008（平成20）年度から始めたイベントである。POP広場を提案した動機は、若者が本のPOPを作ることによって本のすばらしさを伝え合い、また同年代の人が作ったPOPを見て本を読むきっかけになるのではないかと、また、図書館でイベントを行うことで、若者を図書館へ呼び込むこともできると考えたからである。

ここでは、府立図書館で開催した2009（平成21）年度の「本のPOP広場」について紹介する。YAサービスの一手法として参考にしてもらえればうれしい。

### 2. POP広場について

POP広場の運営は館内のYAチームのメンバー中心におこなった。2009（平成21）年度のメンバーは社会教育主事2名、司書8名の計10名である。司書は児童担当、一般部門の閲覧担当、資料収集担当、企画協力業務担当と様々な係から集った。

POP募集期間を中高生が取り組みやすい夏休み（2009（平成21）年7/1-9/9）とするため、6月に関係機関にチラシを配布し、広報をした。関係機関とは学校関係（府内中学校、高等学校、支援学校）、大阪府教育委員会関係施設（博物館など）、府内公共図書館等である。当館ホームページ上に

も「本のPOP広場」紹介ページを作成した。

府立図書館に来た職場体験の中学生、インターシップの高校生にも参加を呼びかけたが、個人での申込みは少なく、圧倒的に学校単位の申込みが多かった。参加した学校は大阪府だけではなく、京都、兵庫などからも応募があった。応募総数は2009（平成21）年度は888点だった。

なるべく多くの人々がイベントに参加できるように、気に入った作品に投票してもらう「一般投票」を導入した。しかし、応募総数は約900点あり、これらすべてを見て投票してもらうのは大変である。そこで一般投票してもらう作品約20点を職員が選んだ。

選んだ一般投票作品20点は、入り口近くのよく目立つ展示スペースに展示し、近くに投票箱を設けた。POPで紹介されている図書を所蔵しているものは、実物を手にとってもらえるようにと、図書も展示した。

可能な限り沢山の人が投票できるように、来館投票・郵送・FAX・ホームページ（一般投票作品をホームページ上でも公開した）で受け付けた。（投票期間は2009（平成21）年10/1-14）

一般投票の上位作品を最優秀賞、優秀賞、優良賞とした。また、良い作品を目立たせ、参加者の励みになればと考え、YAチームで考えた特別賞（ユニーク賞、メルヘン賞、住んでみたいで賞など）も設けた。

一般投票後から表彰式までの間（2009（平成21）年10/27-11/8）に、応募者が頑張って作成したPOP作品を多数の人に見ていただくとうと、応募された全作品を入り口近くの展示スペースに展示した。POPで紹介されている本を手にとってもらえればと、受賞作品を中心に可能な限り、図書も展示した。特に受賞作品は利用者の注目を引くと考え、府立図書館で未所蔵の受賞作品図書は購入した。

表彰式は2009（平成21）年11月8日（日）におこなった。受賞者には表彰状と副賞を贈呈した。

残念ながら予算がないため、副賞として、館内で入手できたエコバック、クリアファイル、ノート、しおりなどをプレゼントした。参加できない受賞者には、表彰状を郵送した。表彰式後希望者には、館内見学ツアーをおこなった。

### 3. POP広場を行ったメリット

- ・自分や友人の作品を見に、中高生が図書館に来てくれた。
  - ・応募作品から、YAにどんな本が人気があるかということが一部だが知ることができた。
- ノンフィクションよりも小説が多く、若者に人気の作者の作品（星新一、東野圭吾、山田悠介、有川浩など）も多かったが、名作文学作品（芥川龍之介、太宰治、夏目漱石、井伏鱒二、ドフトエフスキー）も多かった。名作文学が多いのは、カバーに人気俳優・漫画のキャラクターを起用したり、注釈を付記したり、新訳を出したりと、若い読者に手にとってもらえるよう、出版社がいろいろ工夫していることと関係があると推測される。ベストセラー（『流星の絆』『夜は短し歩けよ乙女』『バッテリー』など）や、ドラマ化・アニメ化・映画化関連の小説（『図書館戦争』、畠中恵、山田悠介）も多かった。
- ・読書感想文だと、学生はなかなか取り組まないが、POPだと熱心に取り組むらしく、学校からPOPの取り組みが注目されている。

### 4. 今後に向けて

学校単位で応募が増えているので、量が増加することが予想される。（第1回2008（平成20）年約350点に対して、第2回2009（平成21）年は888点で、倍以上である。）

応募が増えると、全作品を展示するスペースが確保できず、作業量が負担になる恐れがあるので、今後、学校単位の応募が増えれば、学校単位で作品を選抜して応募してもらうことも考え、事業は継続しておこないたい。

POP広場を通じて、若い人が本に親しむきっかけになっていると思う。今後も多くの若い人が本を読み、また図書館を利用してもらいたい。

#### ※参考

「本のPOP広場紹介」サイト

第2回2009（平成21）年度

[http://www.library.pref.osaka.jp/central/syogaigakusyuu/21pop/21POP\\_jyusyo.html](http://www.library.pref.osaka.jp/central/syogaigakusyuu/21pop/21POP_jyusyo.html)

第1回2008（平成20）年度

<http://www.library.pref.osaka.jp/central/syogaigakusyuu/2040POPkiroku11.html>

#### ※注

（1）2009（平成21）年の有効登録者数（99,280人）に占めるYA層の割合は、13～15歳が1.6%、16～18歳が1.8%となっている。（『大阪府立中央図書館 要覧2009』）